

2020 1月 スクールホットライン

異年齢のつながり育む

縦割り班

From 志水小学校

十一月二十八日(木)朝の会の前に、縦割り班遊びを行いました。あちらこちらの教室から子どもたちの声が響きます。この日は、「かみなりさま」というゲームを縦割り班で楽しみました。真ん中にオニが一人座り、周りに円陣で座ったみんなが「ゴロゴロ……」と言いながら順番に消しゴムを回します。途中で回したふりをして隠し持ってもオニケー。「ドン！」と言ったときに誰が消しゴムを持っているかをオニがあてるゲームです。初めは、ルールが分からず戸惑っていた児童も、六年生が消しゴムを隠してオニをだます様子を見て楽しみ方を学んでいました。わずか十五分の縦割り班遊びですが、これまで「ジェスチャーゲーム」や六年生による読み聞かせを行って、縦のつながりを育んできました。



計八名程度の班になります。前期・後期で編成するので、六年生の児童は必ず班長を経験します。最学年としての自覚や責任感をもって、下級生に接している姿に成長を感じます。常時活動としては、火・水曜日「縦割り班による清掃」も行っています。上級生が下級生に優しく教えながら清掃している姿は、大変微笑ましいものです。さて、今回の縦割り班遊び。下級生が班長さんにメッセージを書きました。「みんなに見本を見せて、一生懸命分らない子に教えていたから、すごいなあと思いました。みんなを楽しませてくれてありがとう。楽しかったです。」このように、縦割り班活動は思いやりや自己有用感を培う機会となります。今後も大切にしていきたい活動です。

シリアの 織 月 ジャーナル

皆さん、あけましておめでとございませう！いつの間にか木の葉が全部落ちて、本当に冬になりましたね。風邪をひかないように気を付けてください。

最近、私は不思議な経験がありました。友達が「日本人の名前の順番が変わるよね！」と言ってきました。私は、ローマ字の順番が変わることではなく、日本語で「田中太郎」が「太郎田中」になると勘違いしました。どう考えても、違和感がありました。そして、不思議なことに、「自分は誰？」のような感じがしました。

友達が私の顔を見て、笑いました。「どうしてそんな反応しているの？シリアの名前は変わらないでしょう？」。確かにそれはそうでしたけど、まだ自分のアイデンティティの一つの部分がなくなったように感じられました。後で本当のことを知って、私も笑えましたが、強い印象が残りました。

日本語を勉強しているこの5年間で、私がいざん変わってきていることに気がつきました。高校の頃日本語が全然わからなかった私は今、日本に住んでいて、毎日日本語で話しています。

少し前に、私が子どもの頃にバイオリンを教えてくれた先生と名古屋で会う機会がありました。先生は日本人で、40年以上シリアに住んでいます。まだ京都に生家が

あるので、毎年4回日本に帰ります。

先生とは、英語と日本語を混ぜながら話していると感じました。私たちがどこか両方の国を自分の心に受け入れています。そうすると、これからどこに行くか、どこに住むか決めるのが難しくなります。私が怖いと思っているのは、どちらにいても、他方を思っ、ホームシックになってしまうことです。

でも、先生はホームシックではなさそうです。どちらの国にいても楽しみたいです。日本もアメリカもホームにしている先生と話していたら、遠いはずの国どうしの距離を近く感じました。

私もいつか先生みたいになりたいです。豊山町も私のホームになっています。皆さん、昨年は大変お世話になりました。今年もよろしくお願します！

今月のワンポイント英会話

Sense of belonging (somewhere)
: (どこかで) 気楽なホームや居場所がある感じ

例: I am starting to feel a sense of belonging in Toyoyama.
(豊山に居場所がある感じを覚え始めました。)

今月のお知らせ

今月のお知らせを英語でご紹介します。

This Month's Public Notice :
Garbage collection from January 1 to January 3 will not be performed.
(1月1日から1月3日までのごみ収集は行いません。)



役場で勤務しているシリア ローズ ラングフォード (Ceilia Rose Langford) 国際交流員のコラムです。

織月 (せんげつ) 三日月などの、織維のような細い形の月のこと。